

夭折の天才・川島雄三が描く、日本映画至宝の痛快エンターテインメント!

「生きるんできい!」

乱世を軽やかに生き抜く庶民の力に
明日への希望が湧いてくる!

日活創立100周年記念 特別上映作品

幕末太陽傳

BAKUMATSU TAIYODEN

デジタル修復版

フランキー堺 南田洋子 左幸子 石原裕次郎 芦川いづみ

金子信雄 織田政雄 岡田真澄 楠村謙二郎 河野秋武 二谷英明 西村晃
高原敏雄 小林進 武藤章生 小沢昭一 梅野泰雄 新井麗子 菅井きん 山岡久乃 殿山泰司 市村俊幸
監督:川島雄三 脚本:川島雄三、田中啓一、今村昌平
撮影:高村倉太郎 照明:大西美津男 美術:中村公彦、千葉一彦 録音:岡本文雄 音楽:原研吉



日本文化に多大なる影響を及ぼした、映画界至宝のエンターテインメント！

落語種を映画にして成功したのは、日本映画史上で、これが唯一。

その意味でこれは奇蹟である。— 井上ひさしさん（作家）

古典落語と映画を結び付けて痛快無類の喜劇を作り上げた

奇才、川島雄三監督に乾杯。— 山田洋次さん（映画監督）



幕末太陽傳

BAKUMATU TAIYODEN

デジタル修復版



銭がなくとも、その身ひとつで時代を駆ける！

江戸時代末期の品川で起こる波乱万丈、悲喜こもごもの人情物語

時は、幕末、文久2(1862)年。

東海道品川宿の相模屋という遊郭へ わらじを脱いだ佐平次(フランキー堺)は、勘定を気にする仲間を尻目に、呑めや歌えの大尺騒ぎを始める。しかしこの男、なんと懐には、一銭も持ち合わせていなかった…。居残りと呼ばれ、相模屋に居ついてしまった佐平次は、持ち前の機転で女郎や客たちのトラブルを次々と解決していく。遊郭に出入りする攘夷派の高杉晋作(石原裕次郎)らとも交友を紡ぎ、乱世を軽やかに渡り歩くのだった。



夭折の天才・川島雄三 × オールスター・キャスト

半世紀の時を経ても色褪せない傑作が、最新技術で銀幕に甦る！

45歳という若さでこの世を去った川島雄三監督。『洲崎パラダイス赤信号』(56)や『しとやかな獣』(62)など人間のもつ性をシニカルかつ客観的に描き、全51作品を世に送り出した。その中で、2009年キネマ旬報オールタイム・ベスト映画遺産200日本映画篇において第4位に輝き、川島雄三代表作との呼び声も高い本作が、日活創立100周年を記念してデジタル修復版としてスクリーンに再び咲く。撮影当時のスタッフが修復に携わることで、映画人の熱い心意気とともに、製作時そのままの姿に生まれ変わった。

50年代のオールスター・キャストが織りな成す、笑いあり涙ありの江戸の「粋」なところに、生きることの喜びを感じるだろう。閉そくした現代日本に、元気と知恵、そして喝を入れてくれる珠玉の時代劇だ。



「幕末太陽傳」に登場する、古典落語の数々…「居残り佐平次」「品川心中」「三枚起請」「文七元結」「お見立て」など

監督：川島雄三 脚本：川島雄三 田中啓一 今村昌平 撮影：高村倉太郎 照明：大西美津男 美術：中村公彦 千葉一彦 録音：橋本文雄 音楽：黛敏郎

出演：フランキー堺 南田洋子 左幸子 石原裕次郎 芦川いづみ 金子信雄 織田政雄 岡田真澄 植村謙二郎 河野秋武 二谷英明 西村晃 高原駿雄 小林旭

武藤章生 小沢昭一 梅野泰清 新井麗子 菅井きん 山岡久乃 殿山泰司 市村俊幸

1957年 / 110分 ©日活 配給：日活



劇場で上質な映画を観よう

2026年2月28日[土] 14:00開映(13:30開場)

料金 1,000円[全席自由]

会場・プレイガイド・お問合せ

松本市波田文化センター ACTHALL 〒390-1401 長野県松本市波田 10106-1

電話 0263-92-7501

窓口

波田文化センター1階 (9時～17時 / 休館：月曜・祝日の翌日)

主催：一般財団法人松本市芸術文化振興財団

特別協力：NPO法人松本CINEMAセレクト

後援：松本市 松本市教育委員会